

# 第201回経営経済動向調査

～2022年7～9月期実績と10～12月期及び2023年1～3月期予想～

## < 目次 >

調査概要等について	1 頁
I 国内景気動向の概要	2 頁
II 自社業況（総合判断）の概要	3 頁
III 企業経営動向 概要	4 頁
IV 当面の経営上の問題点	7 頁
V 企業の現況	8 頁
VI 企業からのコメント	9 頁
<付帯調査>	
VII ゼロゼロ融資の利用状況について	10 頁
巻末資料	13 頁

2022年9月 京都商工会議所

## 調査概要等について

### ＜調査概要＞

■ 調査目的：京都府内における短期的な景気動向を把握するため

■ 調査時期：2022年8月19日～9月2日

■ 調査対象時期：実績（見込） 2022年7～9月期  
 予想 2022年10～12月期  
 2023年1～3月期

※ それぞれ直前四半期との比較による。

ただし、自社業況の各項目の内、製・商品在庫は適正水準比

■ 調査内容：① 国内景気、自社業況の各実績と今後の予想  
 ② 当面の経営上の問題点  
 ③ 付帯調査

■ 調査対象：京都府内に本社、本店等を有する企業515社  
 [製造業・建設業・不動産業・運輸・倉庫業は資本金3億円超、  
 卸売業は1億円超、小売業・サービス業は5千万円超を大企業とした。]

■ 回答企業数：361社（回答率70.1%）

■ 調査方法：郵送によるアンケート方式

※ BSIとは、Business Survey Indexの略で、BSI値は景気全般の見通しについて、強気、弱気の度合を示す。  
 プラスならば「強気」・「楽観」を、マイナスならば「弱気」・  
 「悲観」を意味する。（ただし、製・商品在庫は適正水準比）

$$BSI = \{ (上昇(増加、他)と回答した企業の割合) - (下降(減少、他)と回答した企業の割合) \} / 2$$

### ＜回答状況＞

	対象企業数	回答企業数	回答率(%)	回答企業の構成比(%)
総計	515	361	70.1	100.0
製造業	275	192	69.8	51.0
食料品	29	26	89.7	6.7
繊維	14	10	71.4	2.8
染色	11	5	45.5	1.6
繊維製品	12	7	58.3	1.8
化学・ゴム	26	17	65.4	5.7
窯業・土石	12	7	58.3	2.3
鉄鋼	8	8	100.0	1.3
非鉄	22	15	68.2	3.6
一般機械	24	19	79.2	4.7
電気機械	38	22	57.9	6.2
精密機械	19	17	89.5	3.9
木材・木製品	14	8	57.1	2.3
出版・印刷	26	17	65.4	4.1
その他製造業	20	14	70.0	3.9
商業	83	58	69.9	16.8
卸売業	62	42	67.7	12.4
食料品卸	19	13	68.4	3.6
繊維卸	18	13	72.2	3.9
機械金属卸	25	16	64.0	4.9
小売業	21	16	76.2	4.4
建設業	32	29	90.6	8.0
不動産業	13	11	84.6	2.8
運輸・倉庫業	27	21	77.8	5.2
サービス業	85	50	58.8	16.1
料理・飲食	18	9	50.0	2.6
旅館・ホテル	22	13	59.1	4.9
情報・事業	24	16	66.7	4.4
その他サービス業	21	12	57.1	4.1

# I 国内景気動向の概要

## 国内景気BSI値はわずかにマイナス値に

～ 物価高騰の影響を受けるも、秋から年末にかけては需要期への期待感が見られる ～

### ■ 国内景気動向《実績（2022年7～9月期）》

・今期の国内景気BSI値は▲0.4（前期実績8.1）と、下降が上昇をわずかに上回った。

・過去最大となった新型コロナウイルス感染者数や、原材(燃)料価格の高騰、円安の進行などの要因により、BSI値は停滞気味に推移した。一方で、3年ぶりに行動制限の無い夏となり、観光関連の運輸・倉庫業（2.4）やサービス業（2.1）などの一部業種では幾分プラスの推移となった。

### ■ 国内景気動向《今後の予想》

・今後の予想については、秋から年末にかけての需要期への期待感から、10～12月期は9.8、2023年1～3月期は4.0と、持ち直し基調で推移する見通し。

### 国内景気動向

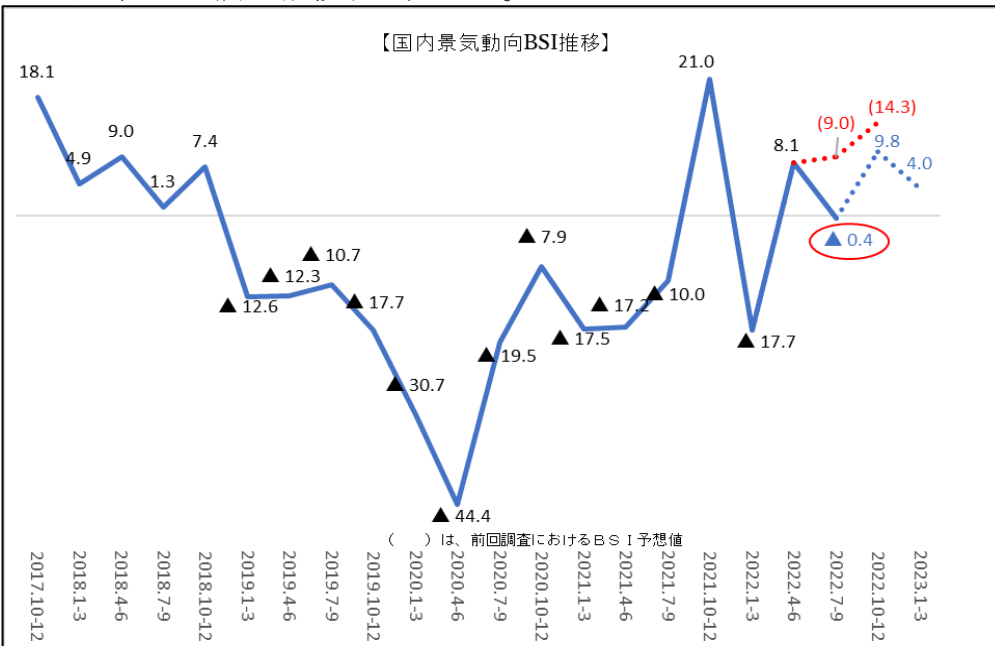
2022年7～9月期（実績） ▲0.4	2022年10～12月期（見込） 9.8	2023年1～3月期（見込） 4.0
------------------------	-------------------------	-----------------------

### 《業種別 2022年7～9月期BSI値》

・7～9月期のBSI値は建設業（▲12.1）、小売業（▲9.4）、卸売業（▲2.4）などの業種で下降し、特に物価高や消費動向の影響を強く受ける小売業は、前期に比べ大幅に下降した。今後の予測では、一部の業種を除き、秋需入りへの期待感からプラスに転じ、2023年1～3月期にかけて持ち直し気味に推移する見通し。

### 《規模別 2022年7～9月期BSI値》

・大企業、中小企業ともにわずかにマイナスに転じたものの、2023年1～3月期にかけて再び上昇基調で推移する見通し。



国内景気	実績						予測						
	2022年4～6月期			2022年7～9月期			2022年10～12月期			2023年1～3月期			
	B.S.I	上昇	下降	B.S.I	上昇	下降	B.S.I	上昇	下降	B.S.I	上昇	下降	
総計	8.1	36.7	20.6	▲0.4	22.8	23.6	9.8	33.9	14.3	4.0	24.5	16.6	
業種別	製造業	5.1	31.1	20.9	1.4	23.8	21.1	10.3	32.6	12.1	4.0	23.8	15.9
	卸売業	4.4	34.8	26.1	▲2.4	22.0	26.8	4.9	36.5	26.8	4.9	29.2	19.5
	小売業	25.0	56.3	6.3	▲9.4	12.6	31.3	15.7	43.8	12.5	▲12.5	6.3	31.3
	建設業	▲10.0	16.0	36.0	▲12.1	10.3	34.5	▲3.5	24.1	31.0	8.7	31.0	13.7
	不動産業	13.7	36.4	9.1	4.6	36.4	27.3	4.6	18.2	9.1	4.6	18.2	9.1
	運輸・倉庫業	27.5	60.0	5.0	2.4	28.6	23.8	21.5	42.9	0.0	0.0	23.8	23.8
	サービス業	16.7	53.7	20.4	2.1	24.5	20.4	14.3	38.7	10.2	7.3	27.1	12.5
規模別	大企業	8.0	35.7	19.8	▲0.9	19.1	21.0	10.5	31.4	10.5	9.7	28.2	8.8
	中小企業	8.1	37.1	21.0	▲0.2	24.3	24.7	9.5	34.9	15.9	1.6	23.0	19.9

## Ⅱ 自社業況（総合判断）の概要

### 自社業況BSI値は一進一退で推移

～ 急速な円安進行や原材料価格等高騰の影響大きく ～

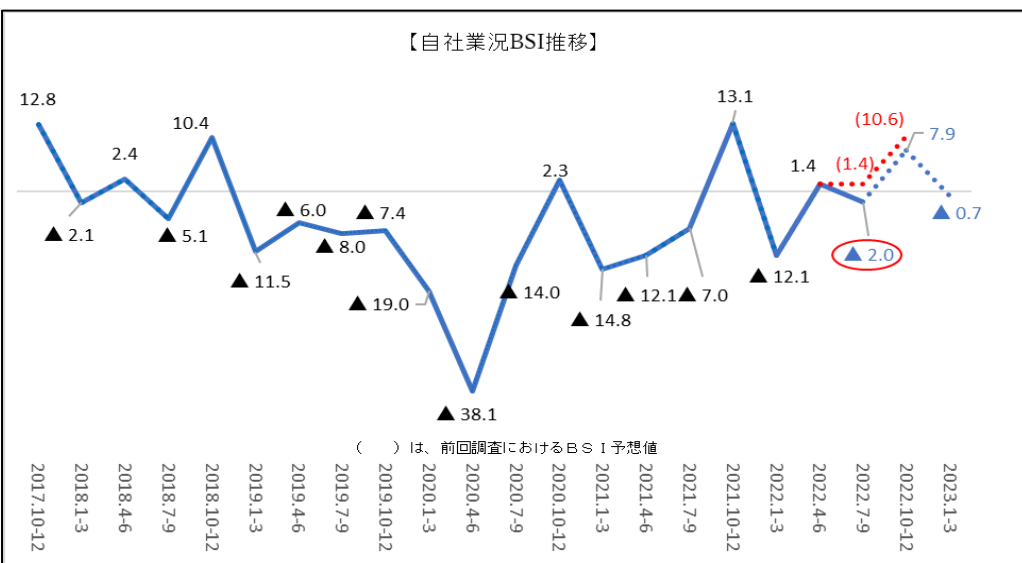
#### ■ 自社業況（総合判断）《実績（2022年7～9月期）》

・ 今期の**自社業況BSI値は▲2.0**（前期実績1.4）と、やや下降した。

・ コロナウイルス感染拡大や半導体等の材料不足、原材(燃)料の高騰などの影響により、多くの業種において下降した。急激な物価上昇による収益の悪化や価格転嫁の遅れ等も加わり、業況の持ち直しに遅れが見られる。

#### ■ 自社業況《今後の予想》

・ 今後の予想については、季節的要因もあり10～12月期は7.9と持ち直しへの期待感が強まるものの、2023年1～3月期は▲0.7と慎重な見方が強まり、一進一退で推移する見通し。



#### 自社業況（総合判断）

2022年7～9月期（実績）	2022年10～12月期（見込）	2023年1～3月期（見込）
▲2.0	7.9	▲0.7

#### 《業種別 2022年7～9月期BSI値》

・ 7～9月期のBSI値は、小売業（▲18.8）、不動産業（▲9.1）、運輸・倉庫業（▲7.2）など、製造業、建設業を除く全ての業種でマイナスとなった。今後、10～12月期は多くの業種で再びプラスを予測し、特に運輸・倉庫業（21.5）、小売業（18.8）は、秋から年末にかけての需要期への期待感もあり、大幅に上昇する見通し。

#### 《規模別 2022年7～9期BSI値》

・ 大企業は0.5とほぼ横ばいになったが、中小企業は▲3.0と幾分下降した。今後、大企業は2023年1～3月期にかけて持ち直し気味に推移するものの、中小企業は一進一退で推移する見通し。

自社業況 （総合判断）	実 績						予 測						
	2022年4～6月期			2022年7～9月期			2022年10～12月期			2023年1～3月期			
	B.S.I	上昇	下降	B.S.I	上昇	下降	B.S.I	上昇	下降	B.S.I	上昇	下降	
総 計	1.4	31.8	29.1	▲2.0	23.2	27.1	7.9	32.0	16.2	▲0.7	22.0	23.4	
業 種 別	製造業	▲1.3	27.3	29.8	0.5	24.0	23.1	5.8	28.9	17.4	0.0	21.3	21.2
	卸売業	▲3.3	28.3	34.8	▲1.2	31.7	34.1	9.7	41.4	22.0	0.0	26.8	26.8
	小売業	15.6	50.0	18.8	▲18.8	12.5	50.0	18.8	50.0	12.5	▲9.4	12.5	31.3
	建設業	▲14.6	12.5	41.7	0.0	25.0	25.0	0.0	17.9	17.9	3.6	25.0	17.9
	不動産業	0.0	18.2	18.2	▲9.1	9.1	27.3	9.1	27.3	9.1	▲9.1	9.1	27.3
	運輸・倉庫業	12.5	45.0	20.0	▲7.2	9.5	23.8	21.5	42.9	0.0	▲11.9	9.5	33.3
	サービス業	14.1	52.8	24.6	▲4.1	24.4	32.6	9.2	34.7	16.3	3.1	30.6	24.5
規 模	大企業	1.0	30.7	28.7	0.5	25.3	24.3	9.8	34.6	15.0	9.1	33.3	15.2
	中小企業	1.5	32.2	29.2	▲3.0	22.4	28.4	7.0	30.9	16.9	▲4.8	17.3	26.9

# Ⅲ 企業経営動向 概要

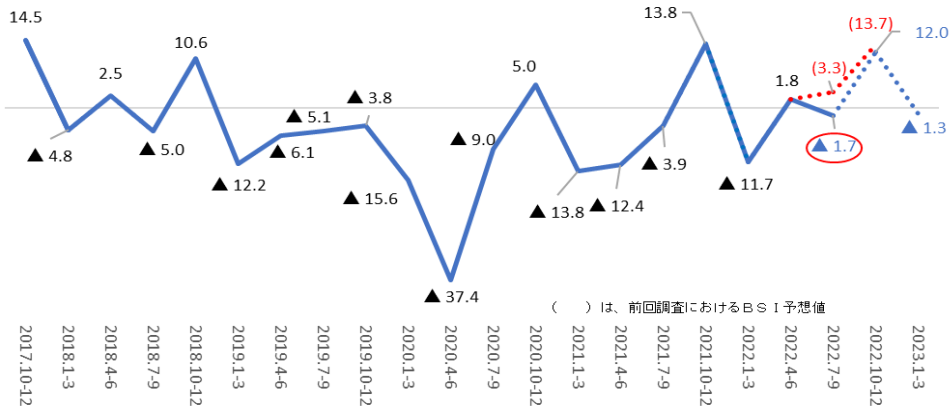
## 1 生産・売上高、工事施工高

2022年7~9月期(実績)	2022年10~12月期(見込)	2023年1~3月期(見込)
▲1.7	12.0	▲1.3

### 《2022年7~9月期BSI値》

- ・今期のBSI値は▲1.7と、運輸・倉庫業(▲14.3)、小売業(▲12.5)をはじめ多くの業種で減少した。
- ・先行きは、10~12月期は12.0と、全ての業種で増加するものの、2023年1~3月期は業種によってまだら模様の期待感となり、全体では▲1.3と幾分減少する見込み。

【生産・売上高、工事施工高BSI推移】



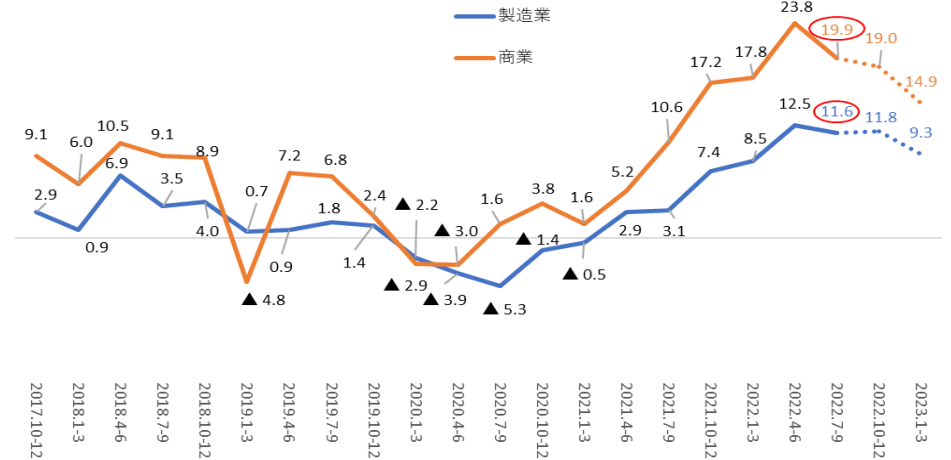
## 2 製・商品・サービス・請負価格

2022年7~9月期(実績)	2022年10~12月期(見込)	2023年1~3月期(見込)
11.0	13.0	8.1

### 《2022年7~9月期BSI値》

- ・商業(19.9)、製造業(11.6)と、引き続き上昇基調で推移した。
- ・先行きは、上昇幅はやや和らぐものの、製造業・商業ともに上昇基調が続く見通し。

【製・商品・サービス・請負価格BSI推移】



生産・売上高 工事施工高	実績						予測						
	2022年4~6月期			2022年7~9月期			2022年10~12月期			2023年1~3月期			
	B.S.I	増加	減少	B.S.I	増加	減少	B.S.I	増加	減少	B.S.I	増加	減少	
総計	1.8	31.8	28.3	▲1.7	22.8	26.1	12.0	36.6	12.6	▲1.3	22.3	24.8	
業種別	製造業	▲0.3	28.3	28.8	1.1	25.0	22.9	11.3	34.0	11.5	▲0.3	22.9	23.4
	卸売業	▲4.4	23.9	32.6	1.2	31.0	28.6	13.1	40.5	14.3	0.0	21.4	21.4
	小売業	9.4	43.8	25.0	▲12.5	18.8	43.8	25.0	56.3	6.3	▲3.1	18.8	25.0
	建設業	▲18.0	12.0	48.0	▲5.2	17.2	27.6	1.7	31.0	27.6	0.0	27.6	27.6
	不動産業	0.0	18.2	18.2	▲9.1	9.1	27.3	5.0	20.0	10.0	▲5.0	10.0	20.0
	運輸・倉庫業	21.1	52.6	10.5	▲14.3	0.0	28.6	19.1	42.9	4.8	▲19.1	9.5	47.6
	サービス業	15.1	52.8	22.6	▲2.1	24.5	28.6	14.3	40.8	12.2	2.1	26.5	22.4
	規模	大企業	1.0	33.7	31.7	2.3	28.0	23.4	10.4	35.8	15.1	9.2	35.6
中小企業		2.1	31.1	27.0	▲3.4	20.6	27.3	12.7	36.9	11.5	▲5.6	16.7	27.9

製・商品・ サービス・ 請負価格	実績						予測						
	2022年4~6月期			2022年7~9月期			2022年10~12月期			2023年1~3月期			
	B.S.I	上昇	下降	B.S.I	上昇	下降	B.S.I	上昇	下降	B.S.I	上昇	下降	
総計	14.0	34.0	6.0	11.0	26.8	4.8	13.0	28.7	2.8	8.1	21.6	5.4	
業種別	製造業	12.5	30.5	5.6	11.6	26.2	3.1	11.8	25.7	2.1	9.3	21.2	2.6
	卸売業	25.0	56.5	6.5	21.5	52.4	9.5	17.9	40.5	4.8	17.1	36.6	2.4
	小売業	20.0	46.7	6.7	15.7	31.3	0.0	21.9	43.8	0.0	9.4	25.0	6.3
	建設業	12.0	44.0	20.0	12.1	31.0	6.9	17.3	44.8	10.3	12.1	37.9	13.8
	不動産業	10.0	20.0	0.0	11.1	22.2	0.0	11.1	22.2	0.0	11.1	22.2	0.0
	運輸・倉庫	2.7	5.3	0.0	▲5.3	0.0	10.5	5.3	10.5	0.0	▲5.3	0.0	10.5
	サービス業	14.2	32.1	3.8	4.1	14.3	6.1	11.3	24.5	2.0	▲2.0	8.2	12.2
	規模	大企業	10.8	29.4	7.8	8.6	22.9	5.7	11.9	27.6	3.8	4.4	16.5
中小企業		15.2	35.7	5.3	12.0	28.4	4.4	13.4	29.2	2.4	9.7	23.7	4.4

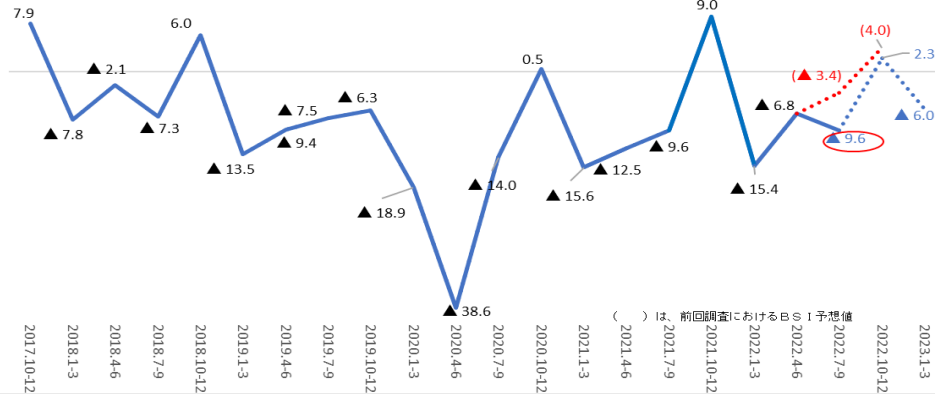
### 3 経常利益

2022年7~9月期 (実績)	2022年10~12月期 (見込)	2023年1~3月期 (見込)
▲9.6	2.3	▲6.0

#### 《2022年7~9月期BSI値》

- ・今期のBSI値は▲9.6と減少し、3期連続マイナス基調での推移となった。全業種でBSI値が悪化し、特に小売業(▲21.9)、建設業(▲19.7)、不動産業(▲13.7)において大きく減少した。
- ・先行きは、10~12月期にかけて2.3とプラスに転じるものの、建設業、不動産業では減少基調が続き、2023年1~3月期には再び全業種がマイナスに転じる見通し。

【経常利益BSI推移】



経常利益	実績						予測						
	2022年4~6月期			2022年7~9月期			2022年10~12月期			2023年1~3月期			
	B.S.I	増加	減少	B.S.I	増加	減少	B.S.I	増加	減少	B.S.I	増加	減少	
総計	▲6.8	22.9	36.5	▲9.6	15.2	34.3	2.3	24.4	19.8	▲6.0	16.2	28.2	
業種別	製造業	▲9.4	19.2	37.9	▲7.9	15.8	31.6	0.8	21.3	19.7	▲5.4	16.7	27.4
	卸売業	▲11.1	17.8	40.0	▲7.3	22.0	36.6	0.0	22.0	22.0	▲2.5	19.5	24.4
	小売業	6.3	31.3	18.8	▲21.9	6.3	50.0	18.8	50.0	12.5	▲12.5	6.3	31.3
	建設業	▲33.4	0.0	66.7	▲19.7	3.6	42.9	▲12.5	7.1	32.1	▲10.7	10.7	32.1
	不動産業	0.0	18.2	18.2	▲13.7	9.1	36.4	▲5.0	10.0	20.0	▲5.0	10.0	20.0
	運輸・倉庫業	7.5	40.0	25.0	▲9.5	4.8	23.8	9.6	28.6	9.5	▲16.7	4.8	38.1
	サービス業	7.6	43.4	28.3	▲7.2	22.4	36.7	11.2	40.8	18.4	▲2.1	24.5	28.6
	規模	▲6.0	25.7	37.6	▲4.7	20.6	29.9	7.2	32.4	18.1	2.0	27.2	23.3
中小企業	▲7.2	21.8	36.1	▲11.6	12.9	36.1	0.2	21.0	20.6	▲9.3	11.7	30.2	

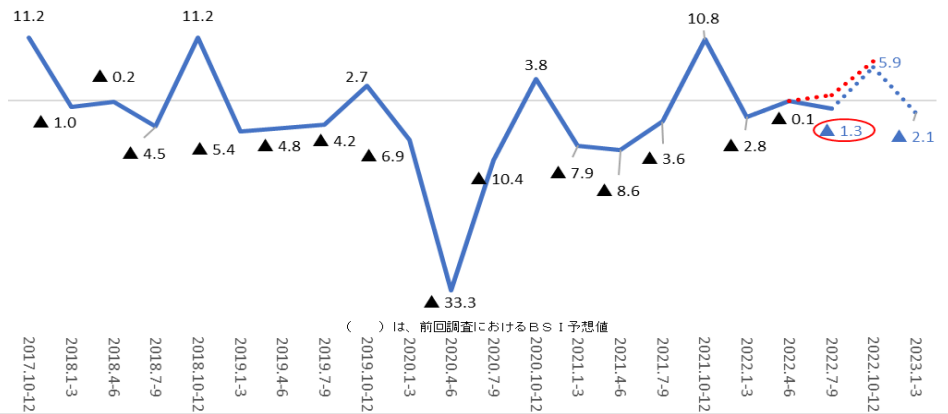
### 4 所定外労働時間

2022年7~9月期 (実績)	2022年10~12月期 (見込)	2023年1~3月期 (見込)
▲1.3	5.9	▲2.1

#### 《2022年7~9月期BSI値》

- ・今期のBSI値は▲1.3と、業種間で開きが見られるものの、全体としてはマイナス基調で推移した。
- ・先行きは、10~12月期は建設業(14.3)、小売業(12.5)などの業種で大きく増加し、全体としても幾分プラスとなる一方で、2023年1~3月期には▲2.1と再び減少する見通し。

【所定外労働時間BSI推移】



所定外労働時間	実績						予測						
	2022年4~6月期			2022年7~9月期			2022年10~12月期			2023年1~3月期			
	B.S.I	増加	減少	B.S.I	増加	減少	B.S.I	増加	減少	B.S.I	増加	減少	
総計	▲0.1	15.4	15.7	▲1.3	12.0	14.6	5.9	20.6	8.8	▲2.1	12.2	16.4	
業種別	製造業	▲0.8	12.3	13.8	▲1.9	9.5	13.2	5.1	17.6	7.5	▲2.5	10.2	15.1
	卸売業	▲4.4	8.7	17.4	1.2	11.9	9.5	▲1.2	11.9	14.3	0.0	11.9	11.9
	小売業	9.4	18.8	0.0	▲3.1	6.3	12.5	12.5	25.0	0.0	0.0	12.5	12.5
	建設業	▲18.8	4.2	41.7	9.0	28.6	10.7	14.3	35.7	7.1	10.8	28.6	7.1
	不動産業	▲5.0	0.0	10.0	4.6	9.1	0.0	▲4.6	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0
	運輸・倉庫業	5.0	25.0	15.0	▲11.9	4.8	28.6	9.5	33.3	14.3	▲19.1	4.8	42.9
	サービス業	10.4	35.8	15.1	▲3.0	18.0	24.0	9.2	28.6	10.2	▲4.1	16.3	24.5
	規模	3.1	20.2	14.1	▲1.4	13.2	16.0	3.4	18.1	11.4	3.9	20.2	12.5
中小企業	▲1.3	13.6	16.2	▲1.2	11.6	13.9	7.1	21.7	7.6	▲4.7	8.8	18.1	

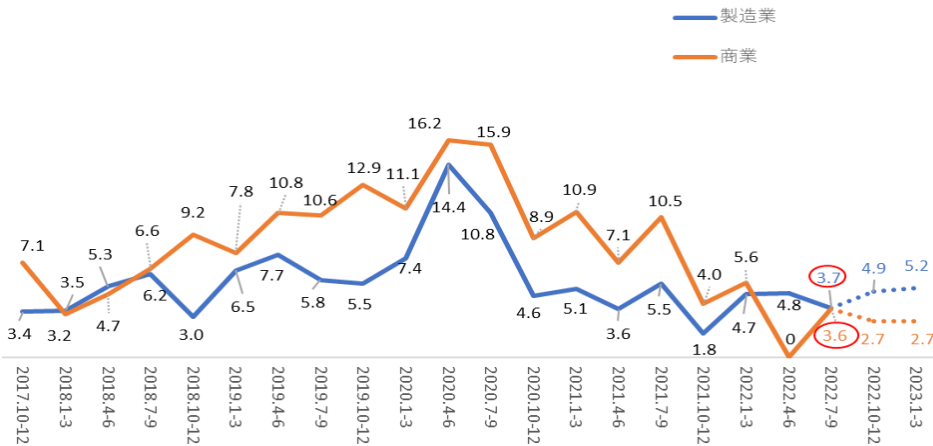
## 5 製・商品在庫

2022年7~9月期 (実績)	2022年10~12月期 (見込)	2023年1~3月期 (見込)
3.7	4.4	4.6

### 《2022年7~9月期BSI値》

- ・今期のBSI値は3.7と過剰傾向で推移した。商業は前期に比べやや過剰感が強まり、特に小売業で過剰感が強まった。
- ・先行きは、製造業、商業ともに、2023年1~3月期にかけて過剰感が続き、規模別では中小企業の過剰感が強まる見込み。

【製・商品在庫BSI推移】



製・商品在庫	実績						予測						
	2022年4~6月期			2022年7~9月期			2022年10~12月期			2023年1~3月期			
	B.S.I	過剰	不足	B.S.I	過剰	不足	B.S.I	過剰	不足	B.S.I	過剰	不足	
総計	3.7	16.4	9.0	3.7	16.4	9.0	4.4	15.7	7.0	4.6	14.1	5.0	
業種別	製造業	4.8	16.2	6.6	3.7	15.4	8.0	4.9	16.7	7.0	5.2	14.1	3.8
	卸売業	1.2	20.5	18.2	2.5	19.5	14.6	2.4	14.6	9.8	3.7	17.1	9.8
	小売業	▲3.6	7.1	14.3	6.7	20.0	6.7	3.4	6.7	0.0	0.0	6.7	6.7
規模	大企業	▲1.6	14.5	17.7	0.8	15.9	14.3	2.4	16.1	11.3	0.0	9.8	9.8
	中小企業	5.4	17.0	6.2	4.7	16.6	7.2	5.0	15.6	5.6	6.2	15.6	3.3

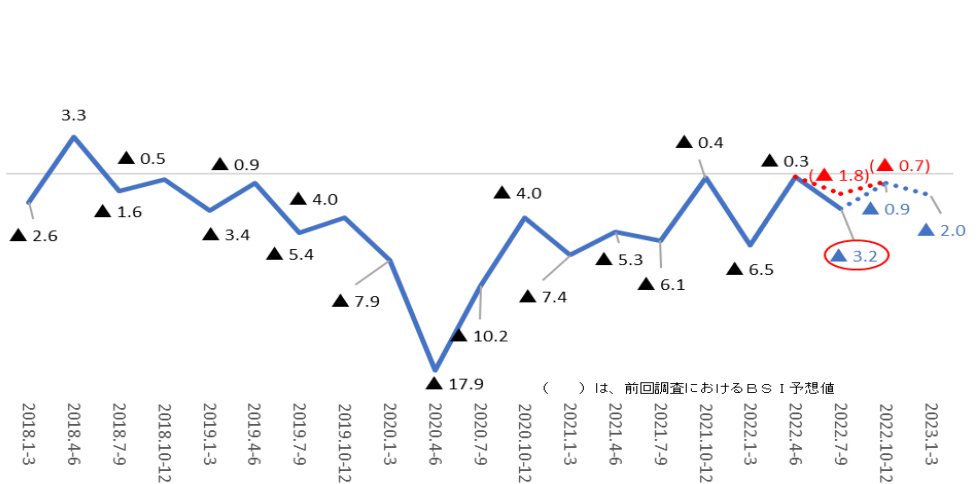
## 6 資金繰り

2022年7~9月期 (実績)	2022年10~12月期 (見込)	2023年1~3月期 (見込)
▲3.2	▲0.9	▲2.0

### 《2022年7~9月期BSI値》

- ・今期のBSI値は▲3.2と、小売業 (▲9.4)、卸売業 (▲4.8)、サービス業 (▲4.0) を中心に悪化傾向がやや強まった。
- ・先行きは、2023年1~3月にかけて、卸売業、建設業は悪化が続き、その他業種はまだら模様の推移となるものの、全体としてはマイナス基調で推移する見通し。

【資金繰りBSI推移】



資金繰り	実績						予測						
	2022年4~6月期			2022年7~9月期			2022年10~12月期			2023年1~3月期			
	B.S.I	改善	悪化	B.S.I	改善	悪化	B.S.I	改善	悪化	B.S.I	改善	悪化	
総計	▲0.3	9.6	10.1	▲3.2	5.3	11.7	▲0.9	8.4	10.1	▲2.0	7.6	11.5	
業種別	製造業	▲2.8	5.6	11.1	▲2.9	5.8	11.5	▲1.3	5.8	8.4	0.0	8.0	8.0
	卸売業	▲1.1	8.7	10.9	▲4.8	2.4	11.9	▲7.1	4.8	19.0	▲8.4	7.1	23.8
	小売業	0.0	18.8	18.8	▲9.4	6.3	25.0	12.5	31.3	6.3	0.0	18.8	18.8
	建設業	6.3	16.7	4.2	▲3.6	3.6	10.7	▲3.6	7.1	14.3	▲3.6	7.1	14.3
	不動産業	4.6	9.1	0.0	4.6	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	運輸・倉庫業	10.6	21.1	0.0	0.0	0.0	0.0	2.5	5.0	0.0	2.5	5.0	0.0
	サービス業	2.0	15.4	11.5	▲4.0	8.0	16.0	2.0	18.0	14.0	▲6.0	6.0	18.0
規模	大企業	1.5	12.0	9.0	▲0.9	5.7	7.5	1.9	10.4	6.6	1.0	8.7	6.7
	中小企業	▲1.0	8.6	10.5	▲4.2	5.2	13.5	▲2.0	7.6	11.6	▲3.2	7.2	13.5

## IV 当面の経営上の問題点

### 調査結果のまとめ

### 4期連続で「原材(燃)料高」が第1位、企業の約3分の2が回答

#### ■ 当面の経営上の問題点

- ・「原材(燃)料高 (69.0%)」が4期連続の第1位となり、回答率は前期よりさらに上昇した。

第1位は「原材(燃)料高」(69.0%) (前期実績67.7%)

第2位は「受注・売上不振」(46.5%) (前期実績43.7%)

第3位は「求人難」(31.0%) (前期実績26.7%)

第4位は「技能労働者不足」(16.3%) (前期実績12.7%)

第5位は「人件費負担増大」(14.4%) (前期実績13.7%)

#### ≪業種別≫

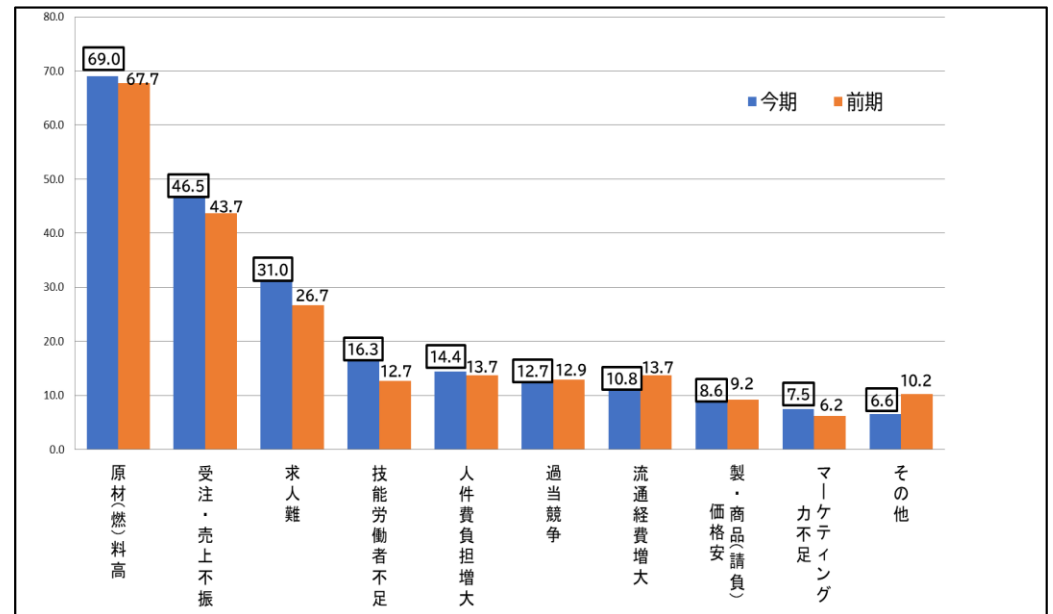
- ・前期に引き続き製造業、運輸・倉庫業では「原材(燃)料高」の回答率が最も高く、どちらも回答率が80%を超える結果となった。

- ・小売業、卸売業では半数以上の企業が第1位に「受注・売上不振」と回答しており、特に小売業は75.0%と、業種別で最も高い回答率となった。

- ・各回答企業からのコメントでは、製造業や卸売業などを中心に、半導体を始めとする部材や原材料が不足している、といった意見があった。また、部材不足に伴う生産遅延や納期遅れといった問題も挙げられた。

#### ≪規模別≫

- ・大企業、中小企業ともに、4期連続で第1位に「原材(燃)料高」、第2位に「受注・売上不振」、第3位に「求人難」となった。



当面の経営上の問題点	第1位 (%)		第2位 (%)		第3位 (%)		
	問題点	割合	問題点	割合	問題点	割合	
総計	原材(燃)料高	69.0	受注売上不振	46.5	求人難	31.0	
規模別	大企業	原材(燃)料高	66.4	受注売上不振	40.2	求人難	27.6
	中小企業	原材(燃)料高	70.1	受注売上不振	49.2	求人難	27.6
業種別	製造業	原材(燃)料高	81.3	受注売上不振	40.1	求人難	25.0
	卸売業	受注売上不振	57.1	原材(燃)料高	54.8	求人難	28.6
	小売業	受注売上不振	75.0	原材(燃)料高	43.8	過当競争	18.8
	建設業	原材(燃)料高	72.4	技能労働者不足	48.3	過当競争	44.8
	不動産業	受注売上不振	36.4	原材(燃)料高 / 技能労働者不足	27.3		
	運輸・倉庫業	原材(燃)料高	81.0	受注売上不振	57.1	求人難	42.9
	サービス業	求人難	56.0	受注売上不振	54.0	原材(燃)料高	44.0



## V 企業の現況

### ～ 原材料価格の高騰は止まらず ～ 操業率は緩やかな上昇が続く ～

#### ■ 操業率（製造業）≪2022年7～9月期≫

「上昇」 17.5%（前期実績18.6%）

「下降」 11.0%（前期実績15.3%）

B S I 値 2.8 （前期実績 1.7）

- ・化学・ゴム（14.7）や一般機械（7.9）などの業種を中心にやや上昇基調で推移し、B S I 値は2.8となった。

#### ■ 受注残（製造業）≪2022年7～9月期≫

「増加」 22.5%（前期実績17.7%）

「減少」 17.3%（前期実績20.4%）

B S I 値 2.6 （前期実績▲1.4）

- ・業種によって開きは見られるものの、一般機械（18.4）や電気機械（10.0）で受注残が増加し、B S I 値はプラスに転じた。

#### ■ 受注高（建設業）≪2022年7～9月期≫

「増加」 24.1%（前期実績14.3%）

「減少」 27.6%（前期実績33.3%）

B S I 値 ▲1.8 （前期実績▲9.5）

- ・公共事業、民間工事ともに下降基調が続き、B S I 値は▲1.8となった。

#### ■ 原材料価格（製造業、建設業）≪2022年7～9月期≫

「上昇」 86.4%（前期実績93.0%）

「下降」 0.5%（前期実績 0.5%）

B S I 値 43.0 （前期実績46.3）

- ・原材料価格のB S I 値は43.0となり、大幅な上昇基調が続いた。

	2020年				2021年				2022年		
	1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期	1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期	1～3月期	4～6月期	7～9月期
操業率（製造業）	▲ 10.9	▲ 31.1	▲ 16.1	3.6	▲ 2.0	▲ 1.8	1.3	12.4	▲ 0.9	1.7	2.8
受注残（製造業）	▲ 15.3	▲ 31.6	▲ 20.0	▲ 3.2	▲ 6.1	▲ 2.4	0.8	8.0	▲ 0.6	▲ 1.4	2.6
受注高（建設業）	0.0	▲ 16.7	▲ 6.3	▲ 14.8	▲ 22.9	▲ 21.2	0.0	▲ 5.2	▲ 10.0	▲ 9.5	▲ 1.8
内 公共工事	▲ 6.7	▲ 11.6	▲ 9.3	▲ 15.6	▲ 7.7	▲ 18.5	▲ 18.0	▲ 3.6	▲ 16.0	▲ 8.4	▲ 6.9
民間工事	▲ 6.7	▲ 24.1	▲ 14.3	▲ 8.6	▲ 19.3	▲ 14.3	▲ 8.0	▲ 5.0	▲ 10.0	▲ 8.4	▲ 5.2
原材料価格（製造業、建設業）	12.3	4.5	4.7	7.8	15.5	23.8	29.3	39.0	40.4	46.3	43.0

## VI 調査企業からのコメント

- ・原油高・円安から染料、原材料ともに値上げが相次ぎ、製品価格を上げざるを得なくなった。(繊維製造)
- ・新型コロナ陽性者・濃厚接触者の自宅隔離に伴う休業・欠員が業務を逼迫させており、大変厳しい状況。(非鉄)
- ・半導体、電子部品の逼迫で厳しい状況が続いており、営業関係にもコストアップや納期調整をお願いしている。(精密機械製造)
- ・外国人観光客(特に外国人)の来日を期待。(木材・木製品)
- ・原材料の高騰、人件費上昇、電気代などの上昇があり、自社努力では賄えず価格転嫁を取引先をお願いするも、一部の企業に認められない。仕入れに関する値上げを大手取引先に認めてもらえると、社員給与を上げることも実行しやすい。(出版印刷)
- ・国外におけるコロナ禍の影響で供給構造が変化した、今後落ち着いていくと考えている。(木材・木製品)
- ・価格の上昇が市場小売価格に反映していない。大手小売業が小売価格を抑えており、それが中小企業に影響している。(食品卸)
- ・景気は回復傾向にあるが、コロナ禍前の水準には戻っていない。ゼロゼロ融資等で持ちこたえている企業が、返済の本格化とともに破綻することを懸念している。(繊維卸)
- ・景気の悪化に加え、インフレにより消費者が必需品以外の消費を抑えているように見受けられる。(小売業)
- ・建設物価、積算資材などで現状を踏まえた単価への反映が少しずつ見られるが、それ以上に物価上昇が強く、単価の見直しが追いついていない状況で悪影響を及ぼしている。(建設業)
- ・建設資材の価格上昇、半導体不足による設備機器等の納期遅れがいつまで続くのかを懸念している。既に受注済みの物件で多々影響が発生している状況にある。(建設業)
- ・コロナの影響は増大しているが景気は戻りつつあり、今後は外食産業の人員不足が大きな問題である。原材料高も含め、売上問題を考えなければならない。(料理・飲食)
- ・人手不足は深刻であり、次の担い手を社内で育てていくため、若い世代を業界へ取り込むことを考えていきたい。また、業界全体で取り組む必要性を感じている。(旅館・ホテル)
- ・コロナ第7波による需要の低迷、原材料価格高騰の影響で、厳しい経営状況が続いている。全国規模での観光支援施策の早期かつ継続的な実施を希望。(旅館・ホテル)

## Ⅶ 実質無利子・無担保融資（ゼロゼロ融資）制度の利用状況について

付帯調査

### 回答企業の39.1%がゼロゼロ融資を利用 制度利用者の半数は返済への不安感を抱える

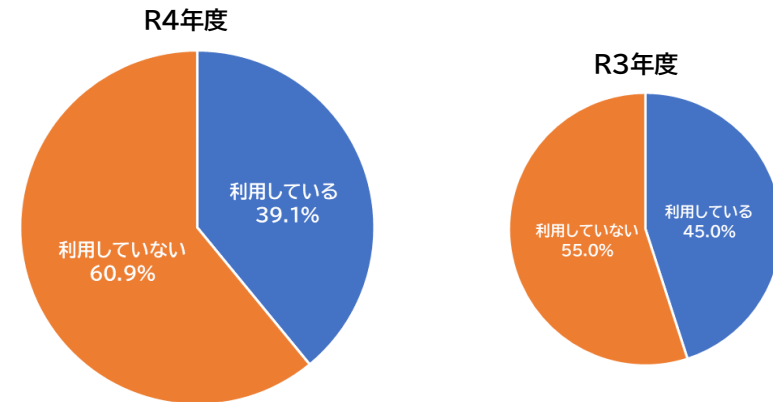
#### 1 政府系金融機関や民間機関（制度融資）によるゼロゼロ融資の利用状況<単一回答>

- ・ゼロゼロ融資の利用状況については、「利用している」と回答した事業者が39.1%と、回答企業の約4割が利用している結果となった。昨年度同時期の調査と大きな変化は無いものの、「利用している」と回答した企業は僅かに減少した。

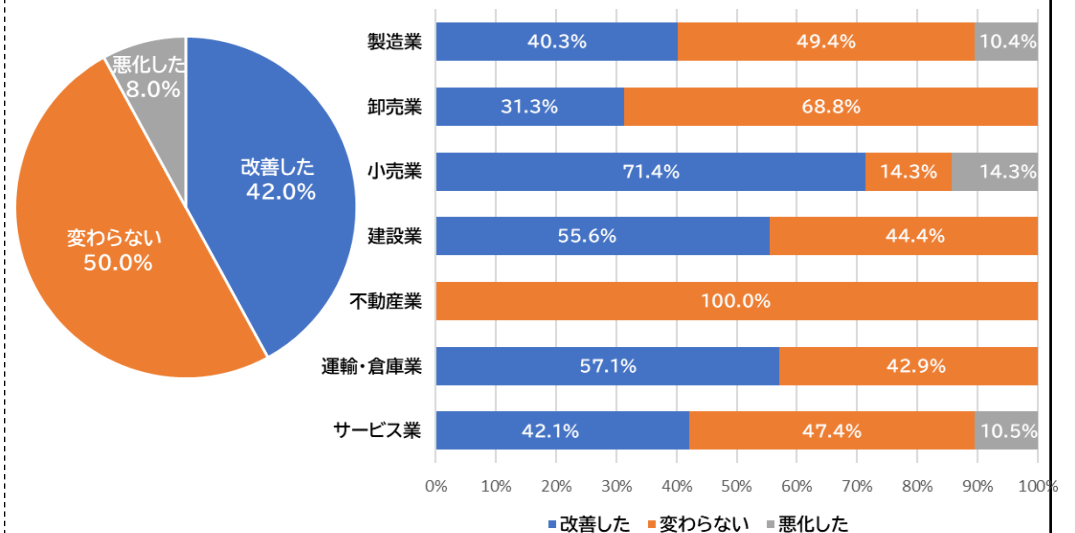
#### 2 ゼロゼロ融資利用直後と比較した現在の経営状況<単一回答>

- ・制度利用直後と比較した現在の経営状況については、「改善した」は半数以下の42.0%に留まり、「変わらない」が50.0%、「悪化した」が8.0%と、約6割の企業において、ゼロゼロ融資を受けたものの、経営状況が改善されていないことが分かった。
- ・業種別の回答を見ると、小売業では「改善した」と回答した企業が71.4%と最も多く、次いで運輸・倉庫業（57.1%）、建設業（55.6%）となった。一方で、小売業は「悪化した」と回答した企業も14.3%と最も多く、次いでサービス業（10.5%）、製造業（10.4%）の順となった。

#### <1 ゼロゼロ融資の利用状況>



#### <2 融資の利用直後と比較した現在の経営状況>



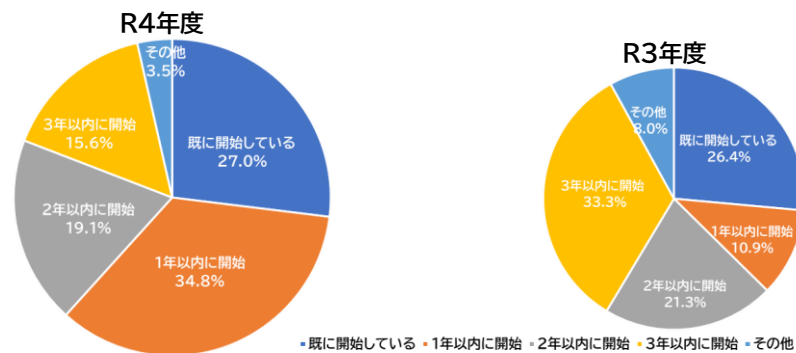
### 3 返済開始の時期<単一回答>

- 返済開始の時期については、「既に開始している」が27.0%、「1年以内に開始」と回答した割合は34.8%となった。「1年以内に開始」の回答率は昨年度の約3倍となっており、返済開始が近づいている企業が着実に増えていることが分かる。

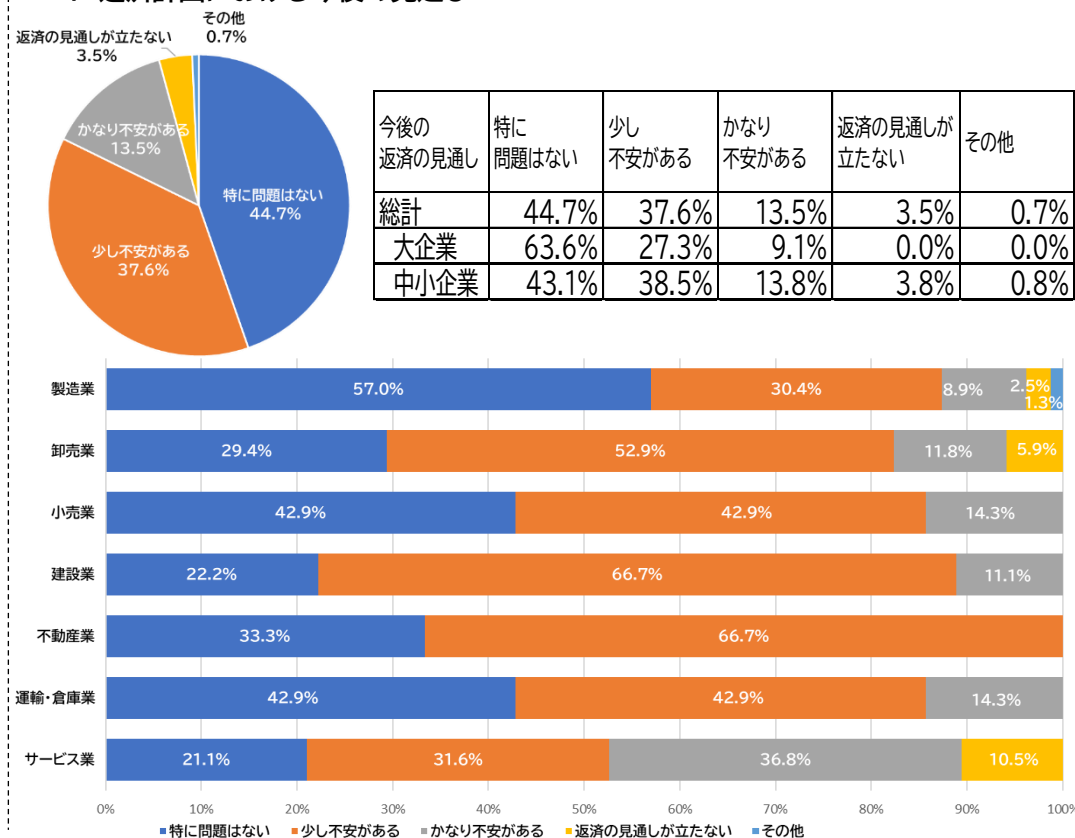
### 4 返済計画における今後の見通し<単一回答>

- 今後の見通しについては、「特に問題はない」と回答した企業は44.7%と最も多い一方で、「少し不安がある(37.6%)」、「かなり不安がある(13.5%)」「返済の見通しが立たない(3.5%)」と回答した企業を合計すると54.6%となり、半数以上の事業者が返済に何らかの不安を抱えていることが分かった。
- 業種別に見ると、製造業では「特に問題はない」と回答した企業が最も多く57.0%となった。一方、「サービス業」では「特に問題は無い」とした企業は21.1%と最も低く、また、「かなり不安がある(36.8%)」、「返済の見通しが立たない(10.5%)」は最も回答が多くなっており、厳しい状況であることが推察される。
- 規模別に見ると、中小企業では「特に問題はない」と回答した企業は半数以下となり、また、「返済の見通しが立たない」と回答した企業は中小企業が全てを占めるなど、大企業に比べ返済への不安が大きい結果となった。

### <3 返済開始の時期>



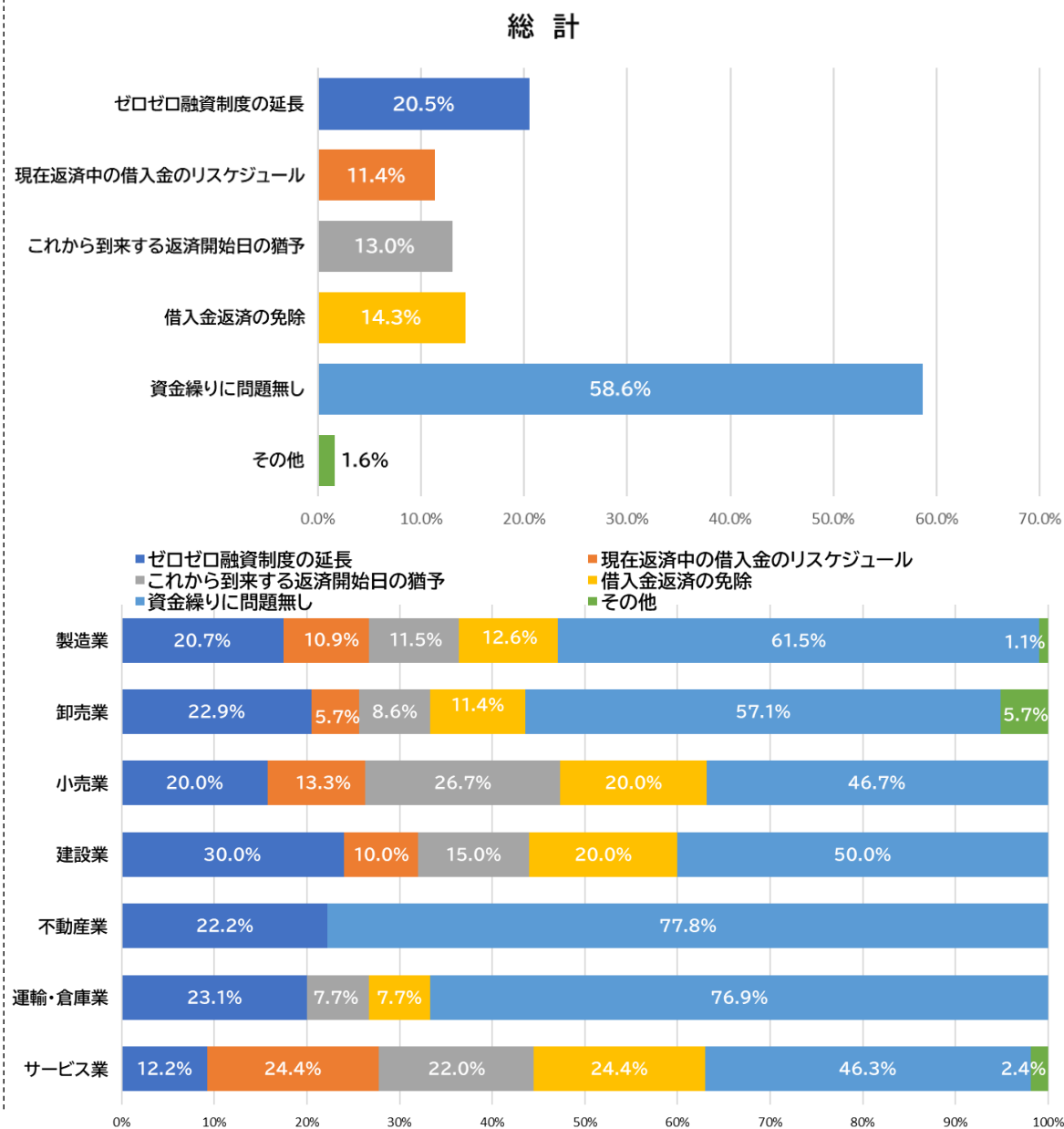
### <4 返済計画における今後の見通し>



## 5 今後の資金繰り安定のために必要な支援＜複数回答＞

- ・回答の約6割は「資金繰りに問題無し」としたものの、約4割は何らかの支援を必要としており、最も回答が多かったのは「ゼロゼロ融資制度の延長（20.5%）」となった。
- ・「借入金返済の免除（14.3%）」、「これから到来する返済開始日の猶予（13.0%）」「現在返済中の借入金のリスケジュール（11.4%）」は、ほぼ同程度の回答率で10%程度となった。
- ・業種別に見ると、不動産業で「資金繰りに問題無し」と回答した企業が最も多く77.8%、次いで運輸・倉庫業（76.9%）、製造業（61.5%）となった。
- ・必要な支援としては、「ゼロゼロ融資制度の延長」が最も多いのは建設業（30.0%）、「返済開始日の猶予」が最も多いのは小売業（26.7%）となった。また、「借入金のリスケジュール」及び「借入金返済の免除」はサービス業で最も多くなった。

## ＜5 今後の資金繰り安定のために必要な支援＞



# 卷末資料

## 調査対象業種の主要製・商品（営業内容）

食料品	清酒、パン、洋菓子、和菓子、調味料等	出版・印刷	印刷・製本、出版、紙製品等
繊維	正絹着尺、帯地等	その他製造業	毛皮、洋傘、マネキン、ゲーム機器、扇子、薫香等
染色	機械染色整理、スクリーン染色、型染友禅、手描友禅等	食料品卸	清酒、洋酒、洋菓子、和菓子、調味料、砂糖、缶詰等
繊維製品	ネクタイ、肌着、レース、リボン、クロス等	繊維卸	白生地、染呉服、帯地、和装小物等
化学・ゴム	界面活性剤、染料、顔料、医薬品、ゴム等	機械金属卸	自動車、家電製品、鋼材、工具、電気機器、工作機械等
窯業・土石	電磁気、砥石、ガラス、生コンクリート、セメント等	小売業	百貨店、スーパー、専門店等
鉄鋼	鉄鉄铸件等	建設業	総合工事業等
非鉄	伸銅品、黄銅棒、アルミ合金、鍍金、金属加工等	不動産業	不動産賃貸、建売、土地売買、代理業・仲介業等
一般機械	車体、内燃機関、繊維・染色機械、工作機械等	運輸・倉庫業	鉄道、道路旅客運送、貨物運送、倉庫業等
電気機械	配電板、配線板、スイッチ、コンデンサ、電池、電子部品等	料理・飲食	料理・飲食（観光地）等
精密機械	計量機、分析機、試験機、レントゲン、医療機器等	旅館・ホテル	旅館・ホテル等
木材・木製品	製材、建材、家具等	情報・事業	情報サービス、調査、広告、事業サービス等
		その他サービス業	洗たく・理容、娯楽、自動車整備、駐車場、個人サービス等